

## Practical Report of Workshop for Training Certified Drawing Therapist

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴江, 毅 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00027935">https://doi.org/10.14945/00027935</a>

## 認定描画療法士養成研修会の実践報告

鈴江 毅  
静岡大学教育学部

### Practical Report of Workshop for Training Certified Drawing Therapist

Suzue Takeshi  
Shizuoka University, Faculty of Education

#### 要旨

近年カウンセリングブームに伴い、多種多様なカウンセリングが行われるようになったが、心理カウンセリングの分野では、カウンセラーによってはカウンセリングの効果がなかったり、却ってクライアントの心を傷つけてしまう恐れもあり、その実態は玉石混交となっている。最近では心理カウンセラーの質向上の目的で、臨床心理関係の専門性の高い資格が次々と登場している。今回、日本描画テスト・描画療法学会が設立した認定描画療法士資格について紹介すると共に、資格取得を目指す人々を対象に、養成研修を行ったのでその経験を報告する。

描画療法士認定を目的にした研修会は、日本描画テスト・描画療法学会の学会活動の一環として、2015年から年2回開催されている。今回担当した研修は、「認定描画療法士研修基礎コース：描画による心理アセスメントの基礎」であり、受講者は男性11名、女性68名の合計79名で、職業としては、医療関係者、福祉関係者、教育関係者、大学院生などであった。

研修内容としてはまず、「1. 描画の基礎概論」として、描画テストと描画療法について概観した。次に「2. 描画による心理アセスメント」で、描画によってアセスメントできること、描画テストの種類、描画法の選択、解釈などを解説し、一部描画実習も行った。さらに「3. 実際の使用例」を解説し、最後に「4. 実施にあたっての注意点」に触れた。講座の参加により、描画療法士の描画テスト法の基本が身に付き、実際の描画テストや描画療法を行う際に役立つとの受講生の反応が得られた。

今後、さらに心理カウンセラーの質向上を目指し、専門的知識の伝授にとどまらず、ロールプレイやシミュレーションを用いたカリキュラムを作成し、それを基にした高度で実践的な研修を継続的にを行い、質のよい認定描画療法士の育成に貢献したいと考えている。

キーワード: 認定描画療法士, 心理カウンセラー, 資格研修会, 臨床心理

## 1 はじめに

現在、社会のカウンセリングに対する関心は非常に高くなり、不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊、職場のストレス対策、過労死、自殺、犯罪被害者など、カウンセリングの需要も逼迫している。小中高等学校には、臨床心理士を中心としたスクールカウンセラーが配置され、その人数は年々増加している。大学における学生相談員も重視されつつあり、産業界においても産業カウンセラーが求められている。他方、全国の自殺者は年間2万人を前後しており、それらの人々のカウンセリングも必要で、適切なカウンセリングを受けていれば自殺は防ぐことができたかもしれない。このように現在はカウンセリングの需要は高く、カウンセラーの増員が続けられてきた。

ここではまず、現在の日本における心理カウンセラー関係の資格を概観する。国家資格としては、公認心理士<sup>1)</sup>、キャリアコンサルタントがある。次に大学・大学院・高等教育機関の資格としては、臨床心理士(公益財団法

人 日本臨床心理士資格認定協会)<sup>2)</sup>、学校心理士(一般社団法人 学校心理士認定運営機構)、臨床発達心理士(一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構)、ガイダンスカウンセラー(一般社団法人 日本スクールカウンセリング推進協議会)、認定心理士(公益社団法人 日本心理学会)、産業カウンセラー(一般社団法人 日本産業カウンセラー協会)などがある。次に学会認定の民間資格としては、EMDR 臨床家資格(日本 EMDR 学会)、応用心理士(日本応用心理学会)、音楽療法士(日本音楽療法学会)、認定カウンセラー・准認定カウンセラー(日本カウンセリング学会)、大学カウンセラー・学生支援士(日本学生相談学会)、家族相談士・家族心理士(日本家族心理学会)、芸術療法士(日本芸術療法学会)、陶芸療法士(日本陶芸療法士協会)、健康心理士(日本健康心理学会)、交通心理士(日本交通心理学会)、行動療法士・専門行動療法士(日本行動療法学会)、交流分析士(日本交流分析学会)、催眠技能士(日本催眠医学心理学会)、医療心理士(一般社団法人 日本心身医学会)、選択理論心理士(日本選択理論心理学会)、福祉心理士(日本福祉心理学会)、プリ

ーフセラピスト・ブリーフコーチ（日本ブリーフセラピー協会）、臨床催眠資格（日本臨床催眠学会）、臨床動作士（日本臨床動作学会）、メンタルケア心理士・メンタルケア心理専門士・メンタルケアカウンセラー（メンタルケア学会）などがある。その他、民間法人・団体認定の民間資格は100以上が報告されている<sup>3)</sup>。

このように多くの心理カウンセリングの資格があり、続々とカウンセラーと名乗る人物が誕生しているわけだが、そのなかで、最近問題になっているのは個々のカウンセラーの能力であり、実力のあるカウンセラーによって適切なカウンセリングがなされれば大きな効果が期待されるが、能力の低いカウンセラーによって不適切なカウンセリングが行われた場合、効果がないあるいは非常に低くかったり、却ってクライアントの心を傷つけてしまうことさえ危惧される。現在まさに心理カウンセラーの実態は玉石混交の様相を呈しており、心理カウンセラーの質の担保や向上が望まれている<sup>4)</sup>。

上記の多くのカウンセラー資格のうち、日本学術会議に属している学会の認定資格では、資格取得に際して、臨床心理関係の学歴やカンセリング歴、実際に活動したレポートを提出したり、事例検討なども行い、あるいは単数あるいは複数回の研修会を行ったり、資格によっては、筆記試験や面接試験を行っているものもある。しかしながら、他の民間の資格などにおいては、テキストを配布するだけとか、短時間の研修を受講するのみで資格を授与している場合もあり、カウンセラーの量の拡充もさることながら、質の担保が重要な問題として浮上している<sup>5)</sup>。

広く臨床心理及び心理カウンセラーの分野を概観すると、心理・精神療法としては、来談者（クライアント）中心療法、精神分析的療法、認知行動療法、芸術療法などがある。一方心理テストとしては、知能検査（ビネー式、WAIS、WISC）、発達検査（新版K式など）、人格検査（質問紙法＝MMPI、Y-G、CMI などや作業検査法、投影法＝ロールシャッハテスト、SCT、TAT など）などがある。それぞれの分野に応じて心理系あるいは精神医学系の専門学会が設立されており、臨床実施、研究、教育、啓発などの活動が行われ、その活動の中には心理カウンセラー等の研修会および資格認定や資格更新などが含まれている<sup>6)</sup>。

それら国内の学会のなかで、主に描画テストや描画療法に関係する学会として、日本描画テスト・描画療法学会がある。学会は1984年に設立された家族画研究会を前身とし、1991年より日本描画テスト・描画療法学会として設立された。現在700名余の会員を有し、年に1回大会を開催し、教育講演やシンポジウム、一般口頭発表などを行っている。また学会誌「臨床描画研究」を年に1回発行し、現在第34巻まで発行されている。学会として、従来より描画テストや描画療法の啓発・普及に努めていたが、2015年より「認定描画療法士」資格を創設した<sup>7)</sup>。資格内容等は、学会ホームページ等に公開されている

**（図1 日本描画テスト・描画療法学会 認定描画療法士 認定規程）。**

#### 「日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士認定規程」

第1条（目的）本資格は、描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行える会員に対して、日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士（以下、描画療法士）の称号を付与するものである。

第2条（資格の認定及び要件）以下の要件を全て満たし、かつ資格研修委員会及び常任理事会で承認され、申請年度までの会費及び所定の認定費用を納めた者を描画療法士として認定し、「日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士」の証書を授与する。

- 1 本学会に入会して2年以上が経過していること
- 2 本学会の大会に2回以上参加していること
- 3 本学会が主催する認定描画療法士研修の基礎コースを受講済みであること
- 4 描画による臨床実践経験を3年以上有すること

第3条（資格の更新）日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士認定更新内規に定めるとおり、5年ごとに資格の更新を行わねばならない。

第4条（運営機関）

- 1 本制度の認定業務は資格研修委員会（以下、委員会）が担当し、これにかかわる事務は資格研修事務局が担当する。
- 2 委員会は理事等から委員を若干名選出して構成し、委員会内に委員長及び資格研修事務局長を置く。

第5条（資格の取り消し）学会を退会した場合は、本資格を喪失する。また描画療法士として不適切な行為等が認められた場合には、委員会の審議を経て理事会において、本資格を取り消されることがある。

第6条（規程の変更）本規程の変更は委員会において検討し、理事会の承認を得て行う。

図1 日本描画テスト・描画療法学会 認定描画療法士 認定規程

特徴としては、資格取得に必要な要件として、十分な学会入会期間と大会への参加、十分な臨床実践経験の上に基礎コースの研修受講を課していること、さらに5年毎の資格更新を求めていることなどである。同様の他の心理カウンセラー関係の資格に比して、学術的にも高度な内容が盛り込まれており、倫理面についても裏打ちされた質の高い資格と考えられる。

今回、日本描画テスト・描画療法学会が認定している、認定臨床描画士の資格取得のための研修会において、医療関係者、福祉関係者、教育関係者、大学院生など対象に、認定描画療法士研修（基礎コース）の研修を行ったので、その経験を報告する。

## II 方法

開催した研修会の概要については、下記の通りである。  
研修会名：定例認定描画療法士研修（基礎コース）「描画による心理アセスメントの基礎」

開催日時：2017年11月12日

開催会場：広島国際大学11階 大会議室

対象者：認定描画療法士資格取得希望者（79名）

主催：日本描画テスト・描画療法学会

研修会の目的：描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行えるようになる

研修内容：

1. 描画の基礎概論
2. 描画による心理アセスメント
3. 実際の使用例
4. 実施にあたっての注意点

## III 結果

研修会は2019年11月17日に開催された日本描画テスト・描画療法学会第29回大会に先立って、前日の16日に午前・午後と1日かけて行われた。定例認定描画療法士研修（基礎コース）「描画による心理アセスメントの基礎」としては、講義、スライド上映、実習などを交えて約90分間かけて行われた。研修参加者は男性11名、女性68名の合計79名であった。参加者の職業は、医療関係者19名、福祉関係者16名、教育関係者15名、大学院生7名、司法矯正関係者1名、不明21名であった（表1 研修参加者の概要）。

表1 研修参加者の概要

		人数
性別	男性	11
	女性	68
	合計	79
職種別	医療関係者	19
	福祉関係者	16
	教育関係者	15
	大学院生	7
	司法矯正関係者	1
	不明	21
合計		79

以下、研修会の内容について報告する。研修内容としてはまず、「1. 描画の基礎概論」として、描画テストにおける心理アセスメントや投影法の活用と描画療法における心理療法や芸術療法の位置づけなどについて概観した<sup>8)</sup>。描画テストの定義（描画テストとは、心理臨床の場において何らかの目的を持って、被験者に鉛筆やクレヨンなどを与え、紙上に何かを表現させるテストである）やコミュニケーション理論の基礎、査定（描画テスト）と治療（描画療法）の関係性なども解説した。次に「2. 描画による心理アセスメント」で、描画によってアセスメントできること、描画テストの種類、描画法の選択、描画後の質問などを解説した。空間象徴の基本と大脳皮質との関連など、精神医学的側面についても触れた<sup>9)</sup>。さらに「実際の使用例」として、S-HTPテストとDAM（グッドイナフ人物画知能検査：Draw-A-Man Test）などの描画実習を行い、一部の作品について寸評を行った。それ以外では、模写や再生（バンダーゲシュタルト・テスト）、絵画完成法（ワルテック描画テスト）、課題画（樹木画テスト（バウム・テスト）<sup>10)</sup>）、人物画、家族画などを解説し<sup>11)</sup>、最後に「4. 実施にあたっての注意点」として、①情報を確実に得るために、丁寧に描くことを強調し、十分な時間をとる。②絵の特徴（サイン）を1対1の関係で機械的に解釈するのではなく、全体評価や他の情報との関係で総合的に解釈する。③問題点や病理性だけを取り上げるのではなく、心の健康な側面も見出して解釈する。の3点を挙げて解説した（図2 研修内容の一部）。以上、主な講義・実習内容を紹介した。

研修会終了後の質疑応答のなかで一部の参加者から「わかりやすかった」「認定描画療法士のすべきことが明確になった」「描画テストや描画療法に自信がなかったが、積極的にカウンセリングに取り入れたい」「描画テスト法の基本が身に付いた」、「実際の描画テストや描画療法を行う際に役立つ」との声が聞かれた。

## 描画テストとは(高橋,1974)

- 描画テストとは、心理臨床の場において何らかの目的を持って、被験者に鉛筆やクレヨンなどを与え、紙上に何かを表現させるテストである。

## ★実習1(S-HTP)

- 1枚の紙に 家と木と人を描いてください
- A4用紙、HB鉛筆、消しゴム
- 5分間くらいで
- 後半の解釈演習に使います

(作品の発表・提出は不要です。  
よろしかったらお持ち帰りください。)

### 5)空間象徴

#### ①用紙の上方と下方

上方	精神 空想 未来 目標 意識 自覚 発展 完成
	天 陽 男性性 主導性 活動性 不安定性
	楽天性 喜び 社会 生
下方	物質 現実 過去 無自覚 無意識 衝動 退行 失敗
	地 陰 女性性 受動性 非活動性 安定性
	悲哀 悲しみ 自殺 死

## ★実習2(DAM)

- 3歳0か月児および5歳0か月児の描く人物画を、想像して描いてください。
- どなたかご協力をお願いします

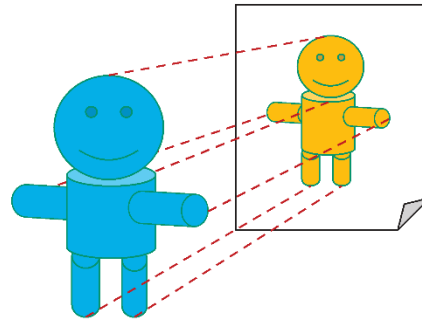
## 査定(描画テスト)と治療(描画療法)

	描画テスト
(低)↑自由度↓(高)	1)模写や再生 ベンダーゲシュタルト フルテック描画テスト
	2)絵画完成法 ①樹木画(バウム・テスト) ②HTP:HTPP、KHTP、SHTP、家屋画 ③人物画・自画像、DAM、雨中人物画 ④家族画:KFD、CFD、CKFD、動物家族画、縄跳び家族画、ドライブ家族画 ⑤その他:風景構成法、洞窟画、卵画、間取り図・見取り図、夢描画
	3)課題画
	4)自由画 スクイグル、なぐり描き法、誘発線画法、Finger-painting
	描画療法
	客観度(高↑)↓(低)

## 2)描画テストの種類

- 賦活: 自由画/課題画/複雑な課題画
- 材質: 紙、鉛筆、サインペン、色鉛筆、くれよん、フィンガーペインティング、貼り絵、粘土、写真、コラージュ、箱庭
- 描き手: CIひとり/集団/CIとTh/他者

## 自己像の投影でもある



### 人物画の発達過程

- 第1位相-挿画期:なぐりがき...図1
- 第2位相-象徴画期:現実世界を象徴的に描く
- 第1段階:誤った写実期=感じたものを表現(3~5歳)...図2
- 第2段階:知的な写実期=観察したものというより、知っているとおりに描く(5~7歳)...図3
- 第3位相-写実画期:実際に見えたとおりに描く(8~9歳)...図4

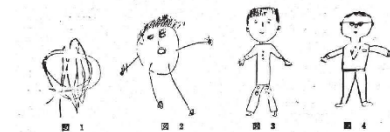


図2 研修内容の一部

## IV 考察

近年カウンセリングブームに伴い、多種多様なカウンセリングが行われるようになったが、カウンセラーによってはそのカウンセリングの効果が疑われたり、却ってクライアントを傷つけてしまう恐れがあり、その実態は玉石混交となっている。最近ではカウンセラーの質向上の目的で、臨床心理関係の専門性の高い資格が次々と登場している<sup>12)</sup>。それら数多くの資格のなかから、日本描画テスト・描画療法学会が認定している、認定臨床描画士について紹介した。認定描画療法士の資格を取得するためには、日本描画テスト・描画療法学会に2年以上在籍し、大会に2回以上参加し、描画による臨床実践を3年以上経験すること、認定描画療法士研修の基礎コースを受講すること、が資格取得の最低要件となっており、十分に臨床心理系の学術的背景と臨床経験を有した資格となっていることが伺われる。

心理カウンセラーの職務としての、心理カウンセリング用務は、人間心理に纏わる、専門的な職務であり、学術的かつ倫理的な面も含めて、高度の専門性が期待される職務である。それに対して、心理カウンセラー関係の質の担保も含めて十分な研修が必要だと考えられる<sup>13)</sup>。今回行った定例認定描画療法士研修(基礎コース)「描画による心理アセスメントの基礎」における参加者の多くは、医療関係者、福祉関係者、教育関係者、大学院生などであり、認定描画療法士の資格取得希望者として、全くの未経験者は少なく、学術的にも臨床経験的にも、ある程度の基礎的素養のある者だったことが伺われた。このことは、資格取得後の認定描画療法士の質を高めるためには重要な点と思われた。

研修会の内容としてまず、「1. 描画の基礎概論」として、描画テストと描画療法について概観した。本研修の最終目標である「描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行える」という会員を養成するにあたって基本となる事項であった。特に心理アセスメントや心理療法の全体と対比した描画療法の位置づけや重要性に関して知識を伝えることができたものと考えられる。次に「2. 描画による心理アセスメント」で、描画によってアセスメントできること、描画テストの種類、描画法の選択、解釈などを解説したが、これらはまさに描画テスト・描画療法の本質的な部分であり、必須の知識と考えられた。その際に、一部S-HTP、DAMなどの描画実習も行ったことで、より実践的な内容になったと考えられる。さらに「実際の使用例」として、模写や再生、絵画完成法、課題画、人物画、家族画などを解説し、具体的なテスト法やカウンセリング技法まで踏み込んだことでも実践的な研修になったと考えられた。最後に「4. 実施にあたっての注意点」として、総合的に解釈することや心の健康な側面も見出すことなど、実際の臨床心理の現場に役に立つ基

本的な注意事項を徹底して研修を締めくくった。最終的に研修会の最初に提示した目的である「描画によるアセスメントや心理面接に関する専門的な知識と技能を有し、これらの実践を行える」描画療法士の養成に資することができたものと考えられる。そのことは研修会終了後の質疑応答のなかで一部の参加者からの反応からも推測された。

今後、さらにカウンセラーの質向上を目指し、専門的知識の伝授にとどまらず、実習をさらに進化させたロールプレイやシミュレーションを用いたカリキュラムを作成し、それを基にした高度で実践的な研修を継続的にを行い、質のよい認定描画療法士の育成を目指したいと考えている。

今日の現代社会において、メンタルヘルスはますます重要となってきており、精神保健や産業保健を含めた医療分野、教育分野、福祉分野その他において最重要視される側面といっても過言ではない。そしてそのメンタルヘルスの対応にあたるメインの人材としてのカウンセラーの重要性は、日々高まっていくばかりである。その重要人材であるカウンセラーの人数を増やすことは目下の課題であるが、その質の向上こそが将来の人々のメンタルヘルスを救うカギとなっている。今後、社会全体のメンタルヘルス向上を見据えて、良質なカウンセラー養成のために様々な教育・啓発活動を行っていききたいと考えている。

## V まとめ

日本描画テスト・描画療法学会が認定している、認定描画療法士について紹介すると共に、資格取得を目指す人々を対象に行った研修会の内容について報告した。

研修は「認定描画療法士研修基礎コース：描画による心理アセスメントの基礎」として行われ、受講者は男性11名女性68名の合計79名で、職業は、医療関係者、福祉関係者、教育関係者、大学院生などであった。研修内容としては「1. 描画の基礎概論」「2. 描画による心理アセスメント」「3. 実際の使用例」「4. 実施にあたっての注意点」などであった。講座の参加により、臨床描画療法士の描画療法の基本が身に付き、実際の描画テストや描画療法を行う際に役立つとの受講生の反応が得られた。

今後、さらに心理カウンセラーの質向上を目指し、一般的知識の伝授にとどまらず、ロールプレイやシミュレーションを用いたカリキュラムを作成し、それを基にした高度で実践的な研修を継続的にを行い、質の高い認定描画療法士の育成に貢献したいと考えている。

## 参考文献

- 1) 松野俊夫. 公認心理師制度の歴史と今後の課題. 日本心療内科学会誌. 22 (2) :Page101-110, 2018
- 2) 野末武義. 公認心理師の養成をめぐる課題-臨床心理士との比較から-. 明治学院大学心理学部附属研究所年報. 11:Page43-48, 2018
- 3) 日本の心理学に関する資格一覧  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%BF%83%E7%90%86%E5%AD%A6%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E8%B3%87%E6%A0%BC%E4%B8%80%E5%A6%A7> (2020年12月1日アクセス)
- 4) 松原達哉. 心理カウンセラーの資格制度の問題課題. 立正大学心理学部研究紀要 1:85-97, 2003
- 5) 増井武士. 来談者のための治療的面接とは-心理臨床の「質」と公認資格を考える. 遠見書房, 2019
- 6) 岩壁茂. 公認心理師の訓練プログラムのあり方 米国の訓練システムとの比較. 精神神経学雑誌. 121:819-827, 2019
- 7) 日本描画テスト・描画療法学会認定描画療法士  
<http://byoga.jp/byougaryouhoushi.html> (2020年12月1日アクセス)
- 8) 高橋雅春. 描画テスト入門. 文教書院, 1974
- 9) カール・コッホ (著), 岸本寛史, 中島ナオミ, 宮崎忠男 (翻訳). バウムテスト [第3版] -心理的見立ての補助手段として. 誠信書房, 2010
- 10) 高橋雅春, 高橋依子. 樹木画テスト. 北大路書房, 2010
- 11) 高橋雅春・高橋依子. 人物画テスト. 北大路書房, 2010
- 12) 沢崎達夫, 小林正幸, 新井肇, 藤生英行, 平木典子, 岩壁茂, 小澤康司, 山崎久美子. カウンセリング心理士の資格をめぐる-資格検討委員会報告-. カウンセリング研究. 49(2):108-122, 2016
- 13) 田所撰寿. カウンセリングの質を高めるカウンセラー教育プログラム-“カウンセリングコンピテンス”の概念を考える-. 作大論集. 7:67-82, 2017